

全体

ことや感じた違和感など
身近な人たちに共有し、
と思いました

交わるきっかけのない人との対話で
が広がりました。このような機会を作るために
したらいいか改めて考えられました

観も人それぞれ多様化
ことも全てではない。
正解はない
られました

子育てしながらの参加について

子どもがいると発信や耳を傾けてもらえる
場への参加は限られてしまいます。
対話の場で視野が広がったことで、これからも
小さな嬉しさ、難しさ、そして苦しさを人と共有
することを諦めてはいけなかったと思いました

母親という立場だとどうしても子どものスケジュール
を考え、それが社会参加へのハードルになりま
す。この場は毎回託児があったり、手を貸してくれ
る人がいたりすることがありがたかったです。この
ことは女性だけでなく、男性にも考えて欲しいです

まちすき編集部メンバー

編集部員は全員が子育て中の女性6名、
交流会の取材を行うため、メンバーの子ども(未就学児)は
保育スタッフが見守りました。



斎藤 百合恵



菅原 慧子



富澤 佳代



半沢 まり子



本田 真弓



矢島 加南子